

平成 26 年度 事業報告

自平成 26 年 4 月 1 日至平成 27 年 3 月 31 日

<概況>

本協会は 1980 年 7 月 26 日に創立、昨年 34 周年を迎えた。創立以来、家族の絆を強めて家庭の再生を図る生き方を社会に提唱し続け、幅広い生涯学習に取り組んできた。家庭崩壊の危機が一段と深刻化している今日、本協会の理念と長年にわたる活動実績が国内外から、家庭教育を中心とする生涯学習団体として高く評価されている。

組織面では、新たに制定された公益法人法に基づいて、平成 26 年 3 月 20 日、内閣総理大臣から「公益社団法人」として認定され、今年度の平成 26 年 4 月 1 日に移行・設立した。

公益目的事業推進のために、首都圏南、首都圏北、東海、近畿、中国の主要 5 地区において、組織・普及・研修・事務局体制のさらなる充実を図り、将来に向けたビジョン作りを本格的に推進してきた。

中でも、事業推進の原動力となる「全国代表者会議」は、本部と 5 地区の代表者によって具体的事項を協議・決定し、その内容が東・西の「全国指導者会議」に報告され、地区の運営に活かされている。

東・西の「主査研修」「主査候補研修」で育成された若手リーダーを中心に積極的な普及活動が展開され、新しい地域の開拓も着実に進んでいる。

過去 34 年間に及ぶ実績を基に、将来に向けての組織体制の確立と学習・研修のプログラム開発やシステム化を図り、公益法人としての活動をさらに推し進めている。

<事業活動>

I. 家庭教育の振興

- (1) 各地の教育委員会や幼稚園、小学校 PTA、短期大学等主催による講演会の講師要請を受け、年間で 12 回派遣、延べ 822 人が受講した。
- (2) NHK 文化センター西宮教室で「家庭の役割・親の役割」の連続講座を年 6 回、延べ 251 人、同さいたま教室で 1 回開催し、23 人が受講して好評を博した。
- (3) 各地の教育委員会より 99 回の後援や学校等の協力を得て、若いお母さんを対象に「家庭教育講座」を開催して好評を得た。また、「ミニ母親講座」「子育てセミナー」ではアットホームな雰囲気、受講者の子育ての悩みやトラブルの解決に向けて、適切なアドバイスをした。

これらの講座開催は 781 回に及び、延べ 30,816 人が受講した。

- (4) 20 人のカウンセラーによるカウンセリングは、各地区で定期的実施され、多くの会員の悩みや問題の解決に役立っている。

- (5) 成人男性対象のスコール・マスターズは、「人生学コース」「心身開発トレーニングコース」「地区学習会」等を開催し、全国展開に向けて積極的な自主運営を進めている。独自開発した「自己開発ノート」の学習が本格スタートし、好評を得ている。
- (6) 熟年女性対象のスコール・グレイセスは、「グレイセス講座」や「生き生きトレーニング」を各地区で開催して好評を得ると共に、指導者の養成を図っている。首都圏地区で組成したコーラスグループ『グレイセス・ヴォーチェ』は、メンバーの生き甲斐として熱心に取り組んでいる。

II. 研修の実施

- (1) 「早朝研修」は全国 55 か所の会場で毎朝開催し、延べ 202,933 人が出席した。
- (2) 初級・中級・上級者向けの「心身開発トレーニング」等が、各地区で活発に行われ、延べ 9,611 人が受講した。「ことだまコース」は朗読法や話し方を向上させ、指導者養成の研修として定着している。
- (3) お母さんがゲーム感覚で子供と共感体験できる「ふれあいトレーニング」をはじめ、寝たきりや転倒防止を図る「生き生きトレーニング」、保育の向上を図る「キッズ保育者研修」を開催し、指導者を養成している。
- (4) 「家庭教育講座」の講師養成研修を行い、講師検定に 4 人が合格した。現在、カウンセリング能力を身に付けた 23 人の講師が、全国の家庭教育講座を担当している。
- (5) 「心身開発トレーニング」のトレーナー審査会が 3 回開催され、5 級に 13 人が合格し、全国で 162 人が各地区で活躍している。また、「ふれあいトレーニング」のトレーナー審査会が 2 回開催され、15 人が合格した。
- (6) 「リーダー研修」「実践者研修」「コメンテーター研修」等に 5,757 人が受講した。
- (7) 会員向けの『自己発見の旅』学習は 176 人が受講し、延べ 2,191 人となった。

III. 研究プロジェクトの実施

- (1) 『子育て応援キット』から学び始めて、『スタート』学習、『ステップ・アップ』学習、さらには『自己発見の旅』学習を受講してレベルアップを図る学習プログラムのシステム化に取り組み、全国展開が平成 27 年 4 月からスタートする。
- (2) 健康と食についてのセミナーを、各地で開催した。

IV. ボランティア活動の推進、及び他の団体との連携

- (1) 収集ボランティア活動は、創立以来のベルマーク収集の全国累計が 2,100 万点を超えている。親代わりで支援している社会福祉法人「恵の園」が、今年度の集票点数 337,069 点で全国 7 位、群馬県 1 位の成績を収めた。

アジア学院へ未使用はがき 6,800 枚をはじめ、聖明園等への援助を行った。

- (2) 第 36 回ユニセフ「ハンド・イン・ハンド」に、全国 49 か所で 852 人（子供 361 人）が街頭に立って市民に募金を呼びかけ、1,175,436 円を日本ユニセフ協会に収めた。日本キリスト教海外医療協力会に使用済み切手を寄贈し、国際協力も堅実に行われている。
- (3) 日本学術会議会員（学術研究団体）の「日本家庭教育学会」の運営に協力し、大会で 2 人が研究発表を務めた。他の団体との連携による社会的展開も大きく推進された。

V. 普及事業

- (1) 月刊『すこ〜れ』（通巻 409 号）を発行し、月刊発行部数は 21,000 部で、生涯学習誌として誌面がますます充実している。
- (2) ホームページは随時データを更新して、魅力的な最新情報を提供している。特に、各地の家庭教育講座の開催情報にアクセスが集中している。
入力データを基に講座のチラシが作成できる「スターター・キット」が、広く活用されている。
- (3) 週 1 回、コミュニティ FM 局「エフエムさがみ」の番組で、月刊誌の朗読や軽音楽、子育て一ロアドバイスなど、学びの広場にふさわしい内容を放送している。
- (4) 講師及び各地のリーダー向けに、話す力や人を動かす力を更に強化するための「講師・指導者 ハンドブック」を編纂中で、平成 27 年 4 月に発行する。
- (5) 女性講師のブックレット「お母さんへのメッセージ」（6 巻）は、子育て中のお母さん方に助言の書として広く活用されている。
- (6) 「ボランティア通信」（通巻 40 号）を年 2 回 12,000 部発行し、全国の収集ボランティア協力者に広く読まれている。

<会員動向>

会員等区分の名称	平成 26 年 3 月 31 日	平成 27 年 3 月 31 日	前年比
一般会員	18,272 人	19,425 人	106.3%
特別会員	5,878 人	6,481 人	110.2%
賛助会員	5 人	5 人	100%

以 上